



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長

中村 隆馬

新年あけましておめでとうございます。

また日頃より、熊本県の酪農家の皆様並びに熊本県酪連役員の皆様には、本会の事業推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は酪農家にとってはかつて経験したことのないような1年となりました。円安による飼料、生産資材、燃料の高騰、とりわけ飼料の価格はとても考えられないような水準であります。

また、F1を中心とした子牛の価格も一昨年の半額以下になっております。

九州生乳販連においては、このままでは九州の酪農は経営が成り立たないと思い乳価交渉に臨みました。年度始めからの値上げは出来なかったため、年度途中からの値上げを交渉しました。今回の交渉では大手乳業三社の九州担当部署との交渉は勿論、本社にも出向いて交渉を行いました。乳業も脱脂粉乳を中心に乳製品在庫を抱えており、一方では牛乳の販売も落ちてい

ることから厳しい交渉となりました。しかし九州の生乳の必要性について話す絶対必要な生乳であると理解を頂き、飲用・はっ酵向けの10円値上げをのんで頂きました。令和4年11月分から値上げとなりましたが、しかし酪農家にとっては10円の値上げではコストの上昇分を補うには足りません。現状を乗り越えるためにまずは酪農政治連盟と連携し、国への要請を支援する必要があると考えます。また全酪連会長、全国酪農青年女性会議委員長は九州熊本から輩出されているので、両者と一緒になって今後の酪農発展のためになる提言を発信していきたいと思っております。

このような厳しい状況乗り越えるためには、組織・乳業が一体となって在庫削減対策にも取り組まなければなりません。我々酪農家においても生乳生産抑制対策や消費拡大・酪農理解醸成活動に取り組むことでこの難局を乗り越えることが必要であり、この取り組みが酪農の未来につながっていきます。また、このような状況下における生乳の需給調整のためには、指定団体の機能を最大限発揮することが重要であり、そのためには酪農家の皆様の協同精神や組織の結束が必要になります。一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、年頭にあたり皆様方の御健勝、御多幸と九州酪農の繁栄を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



熊本県酪農青壮年部協議会
委員長

中村 俊介

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年5月に開催されました通常総会より委員長へ就任しました中村です。

平素より、当協議会の事業運営につきましては、多大なご理解ご協力を頂いております事に心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと6月には九州酪農青年女性会議の委員長、さらに7月には全国酪農青年女性会議の委員長の大役を仰せつかり、今まで経験したことのない怒涛の日々が始まりました。らくのうマザーズ理事会等の各会議への出席やイベントの開催等、日頃の作業とかけ離れた仕事に戸惑う場面が多くありました。さらに、新型コロナウイルス感染症・ウクライナ情勢・急激な為替の円安等により配合飼料および輸入粗飼料の価格の高騰や、生乳の需給緩和による生産抑制を意識せざるを得なく、酪農情勢はかつて無いほど厳しい状況であり、全国会議の委員長として何かできることはないかと自問自答を繰り返す日々です。

一方、感染症対策に留意しつつ、当協議会では一般消費者への理解醸成や酪農家の知識取得に向けた活動に努めました。6月の「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」や、11月の「くまもと農業フェア」では消費者へ向けてL1牛乳を中心とした資材等の無料配布を実施し、「牛乳飲んでます！」「ありがとうございます！」というお言葉を頂いたことで、日頃の作業では味わえない達成感・やりがいを感じたところでした。また、10月には「酪農ふれあい体験交流事業」を約55名の年長児を対象に実施し、園児達の笑顔や牛と触れ合う姿に癒され、このような情勢下でも酪農を続けるための活力となりました。

さらに、8月には「夏季酪農大学」を例年通りの内容で実開催することができました。当日は2人の講師をお迎えしましたが、特に『指定生乳生産者団体における生乳の価格形成について』のご講演では乳価にまつわる知識を習得でき、参加者にとって有意義な時間となったのではないのでしょうか。

世界情勢により我々の生活は急激に変化し、未だ好転する兆しは見えず、酪農家戸数の減少および生産基盤の弱体化が今後も懸念されます。しかしながら、今こそ消費者が牛乳を飲んで頂くきっかけとなる我々の理解醸成活動が一層重要であり、安定的な牛乳の消費拡大、生産意欲の向上へ繋げつつ、各関係組織と協力・情報交換等し、この厳しい情勢を乗り越えるための大きな一因となればと存じます。

最後になりましたが、本年も皆様方にとって良い年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農政治連盟

委員長

隈 部 洋

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆さまにおかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、ご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年新型コロナウイルス感染症の影響から業務用を中心に消費低迷は続いており、乳製品在庫は高水準で推移するなど需給緩和状況が続いています。一方、国際的な影響や急激な円安の進行により、配合飼料・購入乾牧草価格や生産資材、燃油、肥料価格等が高騰、高止まりしており酪農経営に危機的な状況が及ぼしています。このような酪農経営の環境悪化は全国的に生産者の廃業を加速させ、酪農生産基盤の崩壊が危惧されています。

このような中、当連盟におきましては、酪農政策の拡充を求め、関係団体と連携し対策の迅速な実施など、様々な要請活動を行って参りました。結果、配合飼料価格高騰緊急特別対策（補填金交付）や国産粗飼料利用拡大緊急酪農対策（都府県1万円/頭の補填金交付）等の事業決定と9年ぶりとなる異例の期中乳価改定が実現しました。また、昨年引き続き、フードバンク熊本へのLL牛乳の贈呈や新聞広告掲載による

牛乳価格値上げに対する消費者への理解醸成活動など積極的な消費拡大への取組みを展開しました。

さらに、12月には農水省と酪農畜産予算及び施策に関して意見交換・要請活動を実施するとともに、本県選出国會議員へ酪農家の現状を訴え、本県ならびに都府県酪農への支援および総合的酪農経営支援対策の継続と拡充の要請を行っています。なお、昨年7月の第26回参議院議員選挙におきましては、本連盟公認候補者の当選をみる事ができましたこと、改めて御礼を申し上げます。加えて本年4月には熊本県議會議員選挙が行われますが、当連盟では熊本県議會議員選挙と酪農懇談会を実施し、熊本の酪農への理解と酪農環境改善支援への要請を行っております。来る熊本県議會議員選挙では本連盟の公認・推薦候補者へのご支援を宜しくお願いいたします。

乳価改定を迎えた新年の幕開けです。令和5年度の補給金単価と集送乳調整金は合算すると前年から49銭の引上げが決定されましたが、現状の水準では酪農経営の安定には及びません。今後も国による強力な支援と、国民の大きな協力が必要です。昨年10月よりは、海外からの入国検査基準が緩和され観光客が戻りつつあり、インバウンド需要の拡大が期待されます。さらに酪農支援事業は具現化して参ります。これ以上の酪農経営の環境悪化は何としても阻止しなければなりませんので皆様のご協力をお願いいたします。

本年も厳しい酪農経営環境打開のため、予算獲得ならびに政策の実現に向け、関係機関・団体とも協調し、一致団結し組織運動に尽力して参ります。今後とも更なる活動充実に向け、会員ならびに関係者各位のご協力、ご支援をお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農女性部協議会

会長

富 田 裕 美

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。5月の通常総会にて会長を仰せつかりました富田です。

会員の皆様、各関係機関の皆様には日頃より女性部活動に対しまして、多大なるご理解ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

さて、昨年は会長として初めての県女性部の活動となりましたが、牛乳・乳製品の消費拡大に向けて精力的に活動できた1年と実感しております。6月の「ちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」では3年ぶりに蒲島県知事へ牛乳・乳製品の贈呈式を実施することができ、このことを皮切りに各支部にて牛乳の消費拡大をアピールすることができました。11月の「くまもと農業フェア」ではLL牛乳やチーズ等の配布を実施しましたが、想像以上に多くの方々に喜んで頂き、理解醸成活動の大切さを改めて身に染みるところでした。8月の「夏季酪農大学」では『意識したい人材育成 話し方・マナーを身につけよう』と題した講演があり、従業員との話し方や催物での挨拶の仕方等、私

自身を含め多くの参加者のコミュニケーション力アップへ繋がる有意義な時間になったのではないかと嬉しく思います。

さらに、県酪農青壮年部協議会と合同で「熊本県酪農青壮年女性レクリエーション大会」を開催し、「ポッチャ」を楽しみました。150名を超える参加者の応募があり、老若男女問わず怪我無く、笑顔で交流できたことは昨今のコロナ禍において貴重なイベントとなったのではないのでしょうか。

なお、今年は2月4日に「牛乳・乳製品を使った料理コンクール」、2月24日に「酪農女性の集い」を開催予定としております。前者においては、料理研究家である「細川亜衣」氏の講演会を併せて行う予定であり、会員の皆様にとって新鮮な一時となるはずです。また、後者においては、昨年新型コロナウイルスの影響によって中止となりましたシンガーソングライターの「MICA」氏による記念講演を再度計画しております。どちらも感染症対策に留意し実施しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

昨今の酪農を取り巻く環境は一層厳しさを増しているところですが、改めて私たち女性酪農家が消費者へ「安全・安心」な牛乳を提供・普及できるようチャレンジするときではないかと考えております。生乳の生産抑制の状況を改善するためにも女性の力が必要であり、消費拡大に向けて新しい活動案がありましたら積極的に取り入れていく所存ですので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この新しい年が佳き年になるよう心より祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。